



学校のため、地域のために

七滝中央小でコミュニティスクール

2月21日、七滝中央小学校（大竹紳一郎校長）で「地域とともにある学校づくり」の充実を目指すコミュニティスクール研究発表会が開かれました。地域社会とのつながりや支え合いの希薄化などが問題となっている中、学校を直接応援する地域の人たちで構成されている「学習応援団」や学校のよりよい体制づくりを進める「魅力ある学校づくり協議会」の二本柱で、教育課題に取り組んでいます。パネルディスカッションでは、各団体の代表者たちが良かった点や改善点などを挙げて、地域のさらなる活性化に向けて、熱い意見を交わしました。

ガイドに求められるもの

2月22日、みふね恐竜観光ガイド養成講座の一環で御所浦ジオツーリズムガイドの会の島田一良会長が講師として来町されました。恐竜の郷みふねプロジェクト（竹田津純会長）は、みふね恐竜観光ガイドがどうすれば、さらによりよくなるか、島田会長から天草のジオパークとジオガイドをテーマに、これまでのガイド経験を踏まえた説明とガイドに求められる心得を聞きました。その後の懇親会では、お互いの町で合同研修の開催や特産品の行き来といったことで交流を深めようとする話題で会場は盛り上がりしました。



ガイドについて思いを語る島田会長

地域で防犯意識を高めて

2月25日、木倉小学校体育館で木倉小学校区防犯ネットワーク集会が開催されました。今年で13回目となる同集会は、地元の区長会や婦人会、公民館長などで構成されており、子どもたちの登下校時の見守りなどを行っています。会では、熊本県警生活安全第1係長の西川知裕警部補から、“危険から身を守るためには”などをメインに詳しく講話。最後は御船中学校の吹奏楽部が記念コンサートを行い、演奏や合唱を聞いて、子どもたちは防犯への意識を高めました。



防犯ネットワーク宣言をした田中恵三公民館長

熊本とモンタナの自然を学ぶ授業を開発

モンタナ州立大学付属ロッキー博物館のパトリック・リージー古生物部長をリーダーとする授業開発のプロジェクトが行われています。このプロジェクトは、熊本から4館、モンタナから2館の博物館が参加し、専門の学芸員が授業開発に取り組んでいます。開発中の授業は、「古生物学」、「地質学」、「天文学」に関するもの。2月27日には御船小学校（大脇為久校長・339人）で、町恐竜博物館池上直樹博士らを講師とした検証授業を実施しました。この取り組みの成果は9月には指導解説書として出版され、博物館のホームページなどでも公開される予定になっています。



熊本とモンタナの化石発掘や火山などを比較し、調べながら学習する児童たち

第44回都市対抗熊日駅伝大会（男子）

2月11日、第44回都市対抗熊日駅伝大会が開催され、県内19チームが天草の地に集結しました。御船から2人の選手が力走。上益城郡の代表として、一生懸命タスキをつなぎました。上益城郡は5時間39分54秒の記録で順位は4位と躍進しました。

3区 (11.7*区)	8区 (10.2*区)
増田 晃大	山下 駿
36分52秒 区間10位	32分38秒 区間6位



沿道の声援を受ける8区を走った山下駿選手

滝尾でウォークラリー

2月18日、滝尾あゆみ会（上田幸人会長）が滝尾地区で被害があった箇所の確認や地域内のコミュニティ向上と健康増進を兼ねたウォーキング大会を行いました。現地では、県の災害復興担当職員や工事会社の人たちの説明を聞き、ノルディックポールを使いながら、ウォーキングを楽しみました。参加した上田晃大くん（滝尾小5年）は「久しぶりに通りました。下鶴橋など思い出の場所が被災して悲しかったけど、一生懸命復旧作業に取り組んでいる姿を見て、うれしかったです」と話しました。



国道445号を歩く参加者（現在工事中）

みふね初市と屋台村

2月25日、春の訪れを告げる「みふね初市」が本町通り一帯で開催され、時折、雨が降りましたが、メイン会場の町商工会館前は多くの人でにぎわいました。町商工会（竹内昭剛会長）が主催する、郡内のトップをきって開かれる名物市は、みかん・もち投げや春ちゃんの変面ショー、音楽ユニットもふもふによるライブが行われ、会場は大盛況でした。歩行者天国になった通りには、射的や初市飴、植木などの露店が並び、多くの人が足を運びました。日が暮れると、商工会青年部（本多将部長）が運営する屋台村を街なかギャラリー内で開催。訪れた人たちは、焼き鳥を食べながら、酒を飲み、夜遅くまで語り合う姿がありました。



1_ ヤマメの塩焼きを頬張る子どもたち 2_ 植木を買い求める人々
3_ 初市を盛り上げる実行委員 4_ 紅白餅・みかん投げで大フィーバー
5.6_ 屋台村を楽しむ参加者たち



4

5

6